



秋晴れの成田空港、80歳を超えての1人旅とあって、ANA ヤンゴン直航便のチェックイン・カウンターから機内まで、身体検査以外は車椅子に座ったままの出国でした。ヤンゴン空港でも機内から車椅子のまま降りて、荷物も係員が代わって受け取ってくれ、そのままガイドのピュ

ウさんに出迎えられた。嬉しいやらもの悲しいやら初体験でした。それにしても約5千キロ、6時間の快適な空の旅でした。ミャンマーは3月から9月までが長い雨季ですが、今回の訪問は10月12日、気温は30度を超えてもからっとした暑さでした。翌13日は前ヤンゴン外国語大学日本語科長のドウ・キン・エー先生(女性)とピユウさんの3人で昼食をとりながら懇談しました。2年程メール交信を重ねていたので初対面とは思われないう隔意のない話合いとなりました。ヤンゴン外大の学生は800人近いとのことでした。先生は歯に衣着せぬ率直な話しぶりで、学生たちにも怖がられるが、結構、後で慕って来てくれると自分で話していました。あと3年の定年後は日本語学校をやりたいが未だ何も具体的計画はないようでした。

ヤンゴン外国語大学には帰国する16日にキン・エー先生の案内で訪問しました。外国人は立ち入り禁止で、あいにく学長が海外出張中で許可が取れないということでしたが、非公式ということにして教員室に入り、ジン・マー・オーン日本語科長や他の先生たちにご挨拶できました。今回の旅の目的の1つは、善隣会員の皆様から供出して頂いて送った日本語の書籍がどうなっているかを見ることでした。「善隣文庫」は教員室の壁際の書庫2台に保管され、主に先生たちが利用しているが、学生たちにも申請あれば貸し出しているとのことでした。感謝の言葉をいただきました。今まで日本語学習志望者は減る一方でしたが、最近の日本企業の進出ラッシュで、今後は増加が見込まれています。現在ミャンマー進出の日本企業は182社に上るそうです。

バガンでは第33師団慰霊塔に参り、タビニユウ僧院にウ・ニャル・ネイン僧院長を訪ねました。丁度、お祭りの大法会が午前10時から大勢の信者が招かれて始まりました。長い読経や法話のほかに信者との問答なども行われ、地元テレビの取材班も来ていました。寺僧の手料理の饗応に与りましたが、日本式精進料理でなく鶏、豚、魚を使った野菜や果物たっぷりの美味しいご馳走でした。僧院長は13歳で出家してから81歳の今日まで、厳しい戒律を守り修行を続けておられ、妻帯しない、盗まない、殺さない、悟ったような嘘をつかない等の戒律通りに日を送っておられる方です。凡夫の老輩はお話に耳を傾けるだけでした。前回の訪問からたった2年の間に街行く人々の服装が随分よくなりました。人口500万のヤンゴンは交通信号が未整備のまま車の急増で交通渋滞を引き起こしているほどです。電力や上下水道などインフラ整備に対する日本の援助に感謝の言葉を聞きました。ミャンマーの発展はこれからだと強く感じました。裏表紙に旅行中に撮った写真をのせました。ご覧ください。